

はらはちぶ

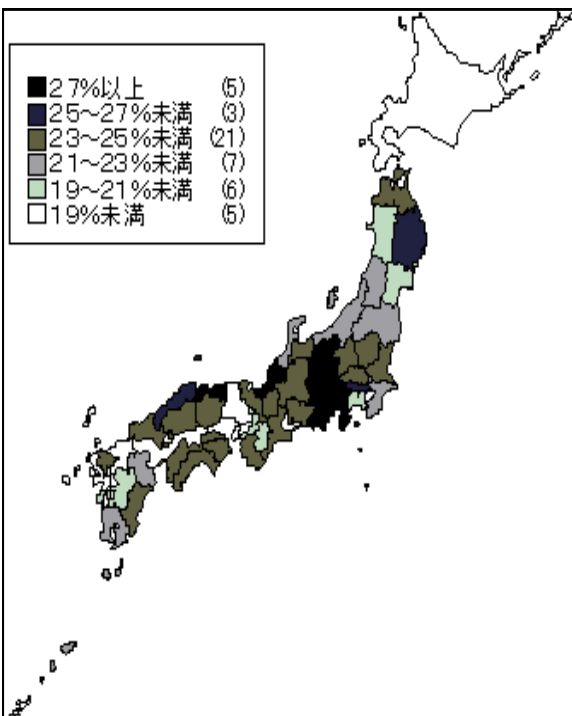
第92号

発行日平成20年2月1日

要介護の予防には・・・

都道府県別に65歳以上の有業率（65歳以上人口に占める65歳以上有業者の割合）をみると、長野県が30.7%と最も高く、次いで山梨県（28.3%）、福井県（27.7%）、鳥取県（27.4%）、静岡県（27.3%）となっています。これらの県は総じて一人当たり老人医療費が低い傾向にあり、健康で元気な高齢者が多いことがうかがえます。

すなわち、高齢者になっても、何らかの仕事に携わり、忙しく日々を送っていることが病気の予防・要介護の予防にもつながるということです。最近では、シルバー人材派遣などで高齢者の皆さんが就労の機会を探すことも出来るようになり、皆さんの健康維持に寄与していると思います。先日、ある新聞に“引きこもりがちな老人”という言葉がありましたが、都市部では就労の場も少なく、散歩するにも緑も少なく、地方の高齢者に比べれば外に出る機会が少ないようです。

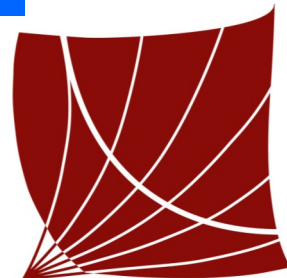


（総務省 統計局 資料より）

また、就労だけでなく介護事業者が行っているサービス（デイケア、デイサービス）などを利用し、張りのある生活を送ることも介護予防につながると思います。市町村が高齢者のために“老人大学”や各種セミナーを実施しているところもあります。市民プールにいった仲間の人たちと一緒に泳いだり、歩いたりするものよいかもかもしれません。確かにテレビなどに出演している俳優さんや政治家などは、高齢にもかかわらず忙しい毎日を送っておられるせいか、健康で年齢を感じさせません。

“要介護の予防”には、「引きこもりがちな老人」にならないことが一番ではないでしょうか！

（文章：S）



目次:

要介護の予防 には・・・	1
ハイブリッド イグアナ	2
院内ギャラリー	3
ちょっとした 節約から・・・	4
編集後記	5

日本医療機能評価機構認定病院
救急指定病院

東近江敬愛病院

電話 0748(22)2222
FAX 0748(22)2221
Http://www.keiaikai.or.jp/

発行責任者：広報委員会

ハイブリッド イグアナ

地球温暖化は人類だけでなく、地球上の動物にも大きな影響を与えます。温暖化の原因を作ったのは人間ですが・・・。

動物は環境や気候の変化によって生息地を変えていくようです。渡り鳥などがその例です。ただ島などに生息して、そこから移動することのできない動物などは、環境の変化に合わせて進化をしていきます。

ダーウィンの「進化論」の着想を得たことで有名な“ガラパゴス諸島”。ここには、ゾウガメやペンギンなど、この島だけにしか生息しない貴重な動植物がたくさんいます。近年、世界遺産にも登録されました。

ガラパゴス諸島にはイグアナが生息します。ガラパゴスのイグアナには、“陸イグアナ”と“海イグアナ”がいます。陸イグアナは花や木の実を食べます。爪が鋭くないので木に登れず、木の下で実が落ちてくるのを一日中待っています。一方の海イグアナは海中のプランクトンや海藻を食べます。海イグアナは鋭い爪を持ち、波に流されずに岩にしがみつきます。水中にも長く潜っていることが出来ます。同じ先祖を持つ2種類のイグアナが海と陸でそれぞれ別々の進化を重ねてきました。生物学的にも非常に珍しく、貴重なものです。

ところが、近年大変なことが起こっています。地球温暖化の気候変動で海藻の枯渇がおり、雄の海イグアナが陸に上がり、雌の陸イグアナと交配し、新たな雑種のイグアナが生まれています。両方のDNAを持ち、“ハイブリッド イグアナ”と呼ばれる新たな進化形です。イグアナは海と陸に分かれたように、柔軟に環境に対応出来る品種のようです。環境に対応できなければ絶滅もあり得ますが、それを逃れる為に“ハイブリッド イグアナ”が誕生したとも解釈できます。今まで決して交わることのなかった異種のイグアナが子孫永続の為に下した“禁断の出会い”です。しかし、進化論のヒントにもなった2種類の陸と海のイグアナが途絶える時はいつか来ます。

人類をもちろん進化してきました。類人猿から始まり、色々な進化により今の私たちの生活があります。しかし、近年は進化するというよりは科学技術の力で、環境や気候の変動に対応しています。その結果が“地球温暖化”に繋がるというのも少し皮肉めいています。

地球温暖化による気候変動で絶滅・苦しんでいる動植物を見ていると、人類も少し対応を慌てる必要があるのではないのでしょうか。

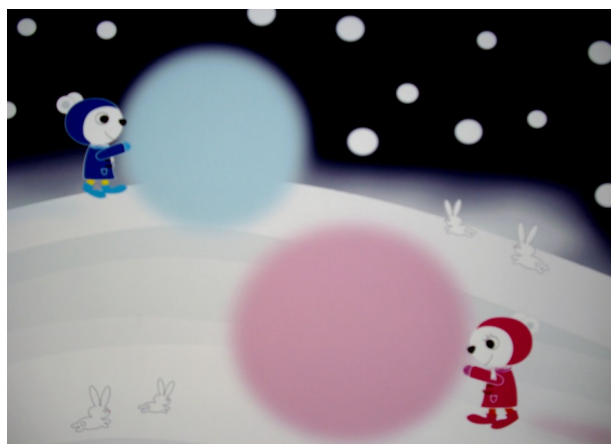
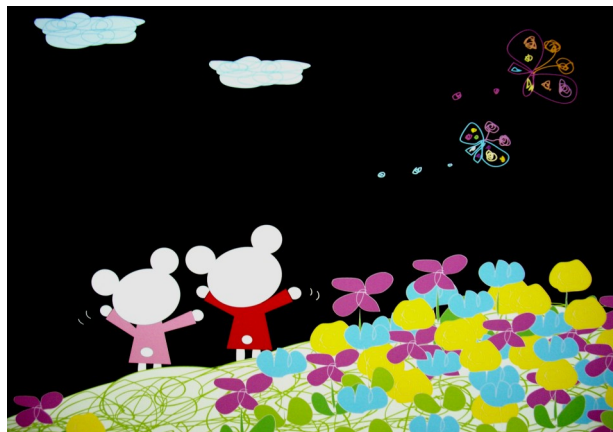
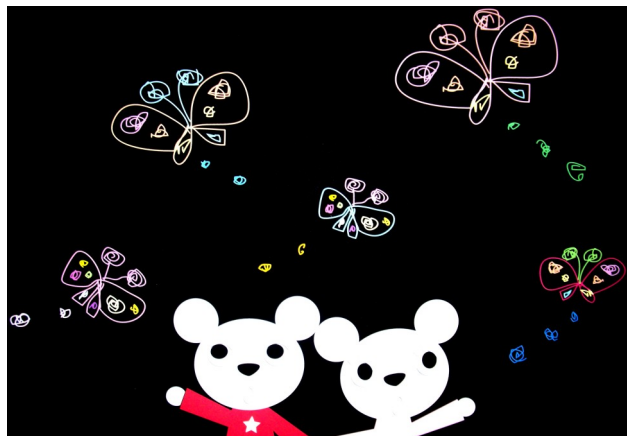
イグアナのように環境に対応して“進化”することが出来ないのなら！

～「地球の危機2008」：テレビ朝日 1月4日放送を観て～

(文章 H)



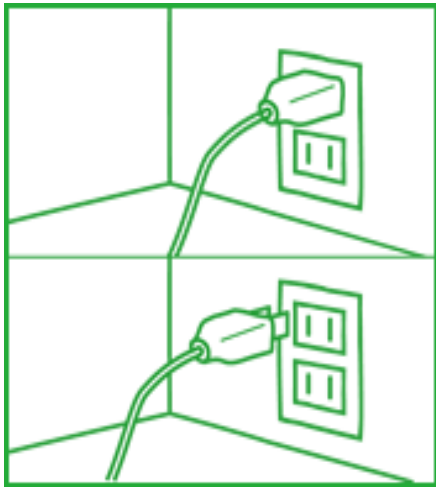
院内ギャラリー



1月21日から1F庭園前廊下に、当院患者様の娘様のご好意で作品を展示させて頂いております。建築計画時より、廊下の壁に作品等を展示できるようにしておりましたが、今回が初めての試みです。患者様や職員からは大変な反響を頂いております。2月末まで展示の予定です。

今後も、このような作品を提供して頂ける方がおられましたら続けていきたいと思っております。宜しくお願いします。

ちょっとした節約から・・・



電気製品を使用していないときに、タイマーなどのために消費される電力が待機電力。ビデオデッキ、オーディオコンポ、テレビ、電子レンジなどが代表的です。そしてその合計は、家庭の電力消費のなんと7%にも。ここまでいくと「少くくらい」とも言っていない数字です。その対策は、使っていないときに電源プラグをコンセントから抜くこと。少し面倒ですが、まずは使用頻度の低いものからやってみましょう。スイッチ付きコンセントの活用なども便利です。



(チームマイナスイオン)

編集後記

東近江敬愛病院

<http://www.keiaikai.or.jp/>



小泉政権“構造改革”のもと、「人をいたわり安全で安心して暮らせる社会の実現」という強烈なキャッチフレーズで始まった医療制度改革。“三方一両損”という方針で、患者、保険料を負担する加入者、医療機関の三者がそれぞれ痛みを分かち合い、診療報酬の引下げや給付・負担の見直しが行なわれてきました。“新しい研修医制度”、“2011年までに介護療養病棟の廃止、医療療養病棟の削減”など医療機関にとっては大変厳しい改革となり、医師不足による社会問題も引き起こしております。また、医療費負担が増大したことで治療を受けられる患者様にも影響がでました。将来的には、療養病床の大幅な削減で在宅治療をされるお年寄りが増えることが予想され、高齢化社会に対する人々の不安もでております。

この構造改革がもたらしたものは、医局人事の崩壊、それに伴う医療の地域格差拡大、医師不足による救急医療の壊滅、小児科・産科などの診療科減少での医療難民の創出・・・。

“安全で安心して暮らせる社会の実現”にはほど遠い内容になっております。

(文章：H)